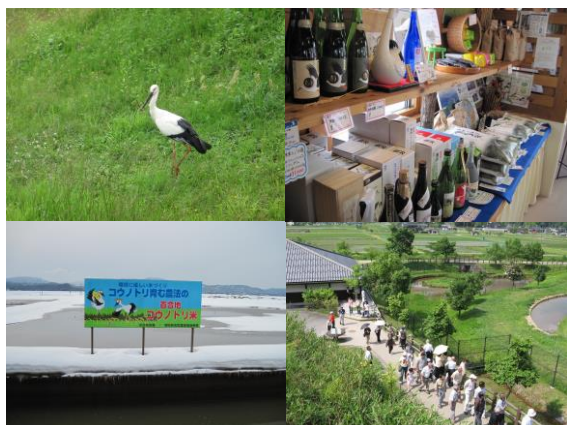


## 少子高齢社会における自然再生 あるいは野生生物との共生

浅野 敏久

## 社会の再生と自然

- ・「自然」の再考：ハイブリッド化する自然、自然の生産(社会的構築)、人間-自然二元論の限界、地域社会にとって自然とは何か？
- ・環境平和論の対象に「自然」を取り込む意義
- ・環境への対応は、グローバルな観点での人類生存に関わることであり、ローカルな地域再生にとっても鍵となるはず
- ・自分がこれまで関わってきたことを通して本企画への参加可能性を考える



## コウノリの野生復帰と 地域の包括的再生

- ・兵庫県豊岡市でのコウノリ野生復帰事業
- ・コウノリ絶滅の要因(乱獲、農業近代化(農薬、圃場整備、用排水路改修)、河川改修、松等の大径木伐採)→共生のための現代的復元
- ・不可欠な地元の理解と協力→包括的再生の提唱(高付加価値農業、関連商品開発、エコツーリズム、環境教育、環境関連企業誘致)



## 外来魚駆除を通じた 新たな資源循環の再生

- ・震ヶ浦、アサザ基金の魚粉事業
- ・外来魚を含む非経済的魚種のNPOによる買取→魚粉製造(地場企業)→上流域有機農家への販売→有機農産物の下流域小売業者への販路開拓とブランド化→流域住民による消費→各主体からの協力金・会費等一次の雑魚買取資金：湖からの直接的有機物の除去としての環境対策費と環境市民活動への民間財団助成金による資金援助
- ・失われた流域的資源循環の現代的再構築



## 酒造と水源地保全の循環構築 西条・山と水の環境機構

- ・「山は海の恋人」→酒造業者主導の里山保全活動
- ・市民・学生・企業による大規模な里山保全活動(「ひろしま山の日」活動、山のグラウンドワーク)
- ・酒造会社からの売り上げに応じた基金拠出→市民活動支援→水源の保全→原料としての水および酒米水田の水源→酒の製造・販売→基金の拠出→活動継続
- ・保全事業により生まれた材等→炭の生産(→河川の水質浄化)、バイオマス燃料化
- ・基金の報償事業による近隣里山活動の支援とネットワーク化。「ひろしま山の日」運動による県内活動地の拡大と連携、全国ネットワークの構築



## ブoppousouの保護活動と地域

- ・ブoppousouという鳥(夏の渡り鳥, キツキの空き巣穴を利用した繁殖, 国内で絶滅の危機)
- ・山村環境への適応と山村の衰退に伴う営巣環境の喪失(大径木の伐採→木製電信柱の利用→廃村に伴う電柱・電線の撤去→営巣場所喪失)
- ・人の生活域でのコンクリート製電柱への巣箱かけ活動→中国電力管内での個体数の回復(東広島市内まで南下)



## オオサンショウウオと地域

- ・中山間地域における河川環境
- ・佐藤修論(河川に対する意識の低さ)
- ・2つの保護活動と広域合併: エコミュージアム
- ・島根県旧瑞穂町: 旧町の天然記念物保護活用事業(オオサンショウウオのまちづくり)→合併による比重低下
- ・広島県豊栄町: 数名の地元有志による保護活動→高齢化・死去による活動継続の危機→合併後の東広島市、旧市の自然保護団体の参加、広島大学博物館等の協力→保護活動・教育活動の拡大

## その他に関わったもの

- ・ ギフチョウの保護と里山保全活動
- ・ カンムリウミスズメ観察と段畑見物のツアー開発
- ・ 集落の高齢化とイノシシ被害の拡大
- ・ ニホンカモシカ観察を通じたエコツアー開発

## 何が論点になるのか

- ・ 環境平和学に必要な視点としての人間と自然の関係性
- ・ 流域をベースとしたローカルな環境・社会再生。あえて流域という地域ユニットに注目
- ・ 過疎・高齢化に伴う地域環境変化と担い手不足。農山村の環境問題の都市域への波及、担い手・資金源としての都市住民
- ・ 突破口としての市民運動→いかに地域に広げるか…安定した社会システムの開発と定着
- ・ 地域還元の柱としてのエコツアー(学び観光)開発